

かけはし

「かけはし」には、男性と女性、さらには人と人、行政・家庭・職場・学校・地域などを互いにつなが合う「かけはし（架け橋）」になれたら…との想いが込められています。

夫婦で対談

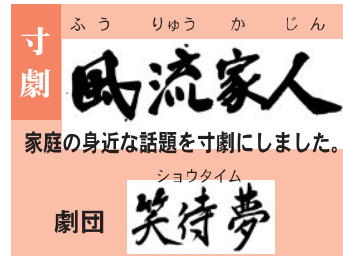
男女共同参画フォーラム2007

女と男のいい関係～ともに子育て 自分育て～

講師 **広岡 守穂** & **立美 夫妻**
中央大学教授 石川県議会議員

12月15日(土) 開場12:30 開演13:00

掛川市生涯学習センター



夫婦それぞれの立場から、子育て・家族を振り返り、お互いが「自分育て」を支えあう関係の大切さについて語ります。



ご夫婦でお越しの方に記念品贈呈

入場自由 託児[要予約申込・11/30(金)まで]、手話通訳あり
主催 ◆ ネットワークかけがわ 共催 ◆ 掛川市 後援 ◆ 掛川市教育委員会

深まる交流

深める学び

8月31日～9月2日までの3日間、埼玉県国立女性教育会館で行われた「男女共同参画のための研究と実践の交流推進フォーラム」に17名の市民が参加しました。

「未来へのメッセージ～新たな男女共同参画への取組～」と題した講演会の開催やグループ討議、寸劇といった60件以上の多様なワークショップが運営され、全国1,224名の参加者とともに各自が思いのワークショップに出席しました。また、交流会では掛川市の男女共同参画施策や観光情報を活発にPRすることができました。



- 9月29日、推進委員10名で名古屋市男女平等参画推進センター(つながれとNAGOYA)を視察してきました。
- NPO法人として指定管理事業を請負った経緯や事業の内容、さらに施設の使い方やスタッフの多様な働き方などについて学びました。また、当日開催された「ジェンダ一の視点で科学をさぐる」という小川真里子氏(三重大学教授)の講演会にも参加し、その後の交流会では、岐阜県「大垣夢ある女性の会」のメンバーと意見交換も行うなど充実した一日となりました。



引き続き川柳・かるたのご投稿お待ちしております。

(熱血ママ)

運動会
ポニーテールの
応援団長

(鈴木 孝司)

猛暑より
もっと暑いよ
妻の愚痴

(年金受給の夫)

おどろいた
我が女房の
趣味多彩

男女共同参画的川柳

響き合う女と男



シオーネ混声合唱団

「シオーネ混声合唱団」は、文化会館シオーネの3年越しの講座から生まれました。4年目に入った今年から自主活動として独立し、シオーネを活動拠点として毎週土曜日の夜、練習に励んでいます。

団員は、掛川市民と近隣の方をまじえ20代から70代まで約80名で構成され、男女の比率は3:7、そのうち5組はご夫婦で参加されています。

団長さんによると、混声合唱の良さはバラエティーに富んだ色々な曲が歌えることで、ポピュラー、クラシックから現代曲まで幅広く、イタリアやフランスの曲は原語で取り組んでいます。より響き合うハーモニーになるよう、団塊世代をはじめ男性の入団を期待しています。

団員が減ることもなく楽しく活動が続いている秘訣は、素晴らしい指導者がいることと運営方法にあるようです。運営委員さんのリードで、団員一人ひとりが役を持ち、自分の合唱団と思ってもらうよう意識付けを行っています。さらに、はじめて入会した人がすぐに溶け込めるように気配りし、練習を休んだ方のフォローも行っているそうです。またシオーネ職員の細やかなサポートもありがたい存在のよう。

これまで「掛川合唱祭」や「なみなみコンサート」などに参加してきましたが、来年は5周年を迎え、団だけのリサイタルも予定しているそうです。

この混声合唱団のように、いろいろな場面で男声と女声のバランスのとれた社会になったらいいですね。

防災にもっと女性の視点を

いつ起きるかわからない災害。各方面でその対策が講じられていますが、これまで「防災は男の分野」と考えられ、女性は炊き出し係だけを担当する組織が多かったようです。しかし被災者は男女同数であり、子どもや高齢者、障害者、妊産婦など介護を必要とする人々も多くあり、もっと防災計画を練る時点から女性の視点を入れる必要があります。今回は、まだまだ少ない防災面での女性の活躍や動きをピックアップしてみました。



救命最前線！いち早く傷病者のもとへ

掛川市女性消防士第1号 山本 樹さん(南消防署)

◆ 消防士という仕事を選んだ動機は？

看護師をしていた母をみていて、人を助ける仕事にあこがれていました。運動が好きで体力には自信があったので、いち早く現場に駆けつけ、人を助ける消防士にも魅力を感じました。

しかし消防の世界では、全国的にも女性の受け入れは難しそうだったので、まず救命士の資格を取り、消防に入ろうと思いました。

◆ 掛川市第1号の女性消防士ということですが、男社会の中での仕事はどうか？

女性だからと区別せず何でもやらせて欲しいと考えていましたが、やはり体力の差は感じます。大切なことはチームワークなので、班の人たちと協力し合いながら仕事をしています。

これから消防の世界に女性が入ってきやすい環境を作っていきたいです。

自分のあらゆる可能性を信じ、消防士の道へと飛び込んだ山本樹さん。さわやかな笑顔に秘めた闘志が感じられました。

「がんばって！！」と思わずエールを送りました。



全国女性消防操法大会で快挙

女性の消防隊の消防技術向上と士気の高揚を図り、もって地域における消防活動の充実に寄与することを目的とした「第18回全国女性消防操法大会」が去る10月25日、横浜市で開催されました。

静岡県代表として出場した掛川市女性消防隊は、8月から2ヶ月間にわたる訓練の成果を遺憾なく発揮し、素晴らしい操法を全国大会の会場で披露することができました。とりわけ4番員の松川友紀さんが優秀選手に選ばれるという快挙を成し遂げました。

全国大会出場にあたり、操法の指導をされた掛川市消防団指導員の皆さん、訓練のための機材の準備・片付けを担当してくれた各分団応援隊の皆さんなど、出場隊を支える大きな力がそこにはありました。まさに男女共同参画で挑んだ全国大会でした。

防災に積極的に取り組む「自治会女性役員連絡会」

自治会のなかで三役を担っている（または担っていた）女性たちがつくる自治会女性役員連絡会（通称「菜の花会」）は、昨年4月に結成されました。今年度は6人が所属、代表は西郷地区構江副区長の曾根順子さんです。

災害時には各々の自治会で対策本部役員となる立場にありますが、消火や救急などの分野はほとんどが体験していませんでした。

そこで「ネットワークかけがわ」と共催で16人が寒さ厳しい2月に1泊2日の避難所生活を体感しました。

テント張り、心肺蘇生法やAEDの使い方、消火器具の使用、薪を使っての夕食準備など密度の濃い実習をし、夕食後は無線機をもって夜回りに出かけました。

この経験を基に会員はさらに学習を重ね、女性セミナーの講師を務めたり、自治会役員会の会合で「防災における女性の積極的登用」をPRしています。今年度も一般市民向けに「避難所体感セミナー」「AEDの講習会」を計画しています。



防災に女性の力と発想は不可欠

防災組織の重要ポストに女性が入ることで、従来と異なる発想が生まれ、安心安全のまちづくりに向けてより実用的な動きをみせている西郷地区の構江区。自治会組織はまわり番で交代が早いので、防災組織は別立てになっています。

区長の桑原通泰さんと防災会長の野寄強さんは、訓練のとき女性の力ではポンプが動かないのを見て、昨年女性の力でも動かせる小型ポンプを備えました。

また、1次非難場所の西郷小学校まで行くことが困難な妊婦やお年寄り、障害をもつ人たちの避難所に身近な構江公民館をあてたいと考え、今年は災害時の授乳・着替え・ポータブルトイレの使用時などに役立つ小型のテントも購入しました。

市内でただ一人、女性の防災会長



粟本地区・葛ヶ丘の防災組織は、自治会の副会長が自主防災会長を務めるようになっており、今年度から沖野まき子さんがその任に当たっています。以前地区長をやっていたときも防災隊長を経験しており、今年はずでに自らの発案で防災部員の中の女性を対象に、消火器具の取り扱いなどの訓練を3回実施し、述べ70人が参加しました。

また60～70代男性の熟年者防災委員は、これまで懇談会だけが行なわれていましたが、今年には実際に町内をくまなく回りながら、声が途切れがちだったトランシーバーの点検を行ないました。

《市内の自主防災会227団体 交通防災課調べ》

いざという時のために 赤十字奉仕団ボランティア活動

心臓マッサージやAEDに挑戦！

掛川市赤十字奉仕団（岩倉弘子代表）は10月21日生涯学習センターで行われた「ふれあい広場」に参加し、救命・応急手当を体験できるコーナーを設けました。心臓マッサージ・AED（注1）の使い方・三角巾の扱い方に多くの方が挑戦しました。初めて体験したという主婦は「AEDは難しいと思っていたけれど、私にも扱えました」と話してくれました。



団員100名が負傷者役で参加

10月23日「つま恋」で日本赤十字社静岡県支部と近隣9県合同災害救護訓練が行われました。災害時に備えて救護員の技術向上と県域を越えた連携・協力を図るための訓練で、簡易診療所国内型緊急対応ユニットを設置し、トリアージ・治療・搬送などを実施しました。

掛川市赤十字奉仕団の団員100名は負傷者役で参加し、日ごろからの災害への備えがいかに重要かを実感しました。

注1 AEDとは心臓の心室細動の際に電気ショックを与え、心臓の動きを戻すことを試みる医療機器

西山口女性部で「防災」を学習

西山口地域生涯学習センターでは、5月27日女性部の第1回学習会として「女性防災セミナー」を開きました。

防災を取り上げた理由は「女性の防災意識の高揚」「実際の災害時に備え、女性の果たす役割を学ぶこと」だそ



うです。

講師は自治会女性役員連絡会代表の曾根順子さんと災害ボランティアコーディネーターの山本俊次さん。参加者は2人の具体的な話や防災グッズ・非常食の解説などを熱心に聴いていました。